

古事記読書会

「弥栄(いやさか)の会」

2020年度第11回 報告書

■開催日…2021年3月27日(土)

9:30～11:30

■開催場所…Zoomにて開催

■参加者…5名(正会員)

■内容…

(1) 参加者自己紹介

(2) 朗読

阿部國治著・栗山要編「第六集 天岩屋戸(あまのいわやと)」第11～12章途中までを、Zoomを用いて全員で順番に輪読

(3) あらすじ ※これまでのあらすじは(5)を参照
第11章 のりなおし

高天原での須佐之男命の行為について神々から天照大御神に苦情が殺到する。天照大御神は須佐之男命をとがめず、神々に対して、須佐之男命が自らの受持ちに熱心なあまり他が見えなくなっている状態(Ⅱ勝ちさび)であると伝え、須佐之男命の気持ちと行為に根拠を与える(Ⅱのりなおし)。

第12章 みかしこみ

須佐之男命は研究のため斑馬の皮を逆剥ぎにしさらに神々の反感を買う。天照大御神から命じられ斑馬を持参した須佐之男命は、天照大御神が機織祀りの最中で入り口が狭かったことから、御殿の屋根を壊して斑馬を墮とし入れる。天照大御神に仕える機織女は神に奉る織物が斑馬墮とし入れによって穢されたことを嘆き自殺する。天照大御神は責任を感じ天つ神に長い祈りを捧げる(Ⅱみかしこみ)。

(4) 読後感

○「勝ちさび」とは自分の受持ちを背負って進むことであり、須佐之男命の行為が「勝ちさび」ならば天照大御神はとがめず「のりなおし」でフォローする。一方で、改心する前の須佐之男命の「なきいさち」ならば「いつのをたけび」で諭す。しかし

ながら、その行為が「勝ちさび」なのか「なきいさち」なのか見極めることが難しいと思った

○「職業に貴賤(きせん)なし」という言葉が土木と重なった。以前は「勉強しないとあなるよ」と指差しされていた土木作業員が、今では尊い仕事として理解されている。

○須佐之男命の荒行は通常の古事記では悪者として伝わっているが、阿部先生の解釈では研究熱心なあまりの行為(Ⅱ勝ちさび)であると肯定されている。須佐之男命と八百万神との関係性がまるで今のSNS炎上やマスク警察等の個人攻撃と重なるところがあり、阿部先生の大予言のようだ。人間は変わっておらず同じ過ちが繰り返されている。古事記に書かれているとわきまえて過ごしたい

○自殺した機織女は屋根を壊して斑馬を墮とし入れた須佐之男命の誤った行為に「見驚きて」、それが間違っていることを訴えるために自殺したかのように感じた。命をかけて受持ちを果たそうとしたのだと思う

○天照大御神は絶対の自信があるにもかかわらず、「のりなおし」により相手に自分で気付かせるという手段を選んでいる。ことが起きて自分で気付く、ということがやはりとても大切なのだと思う

※参考…第1章～第10章あらすじ(文責…小林)

「受け日」(うけひ…第一章～第四章)

第1章 なきいさち

伊邪那岐大御神の子…天照大御神、月読命、建速須佐之男命の三姉弟。父が須佐之男命に「ことよさし」として現世の国造りの使命(国土開拓)を命ずる。須佐之男命は移動中の困難に遭い、荒れ果てた現世を見て使命の尊さを忘れ、姉兄を羨み「なきいさち」状態となる。そこへ父伊邪那岐大御神が現れて叱り「神やらい」として須佐之男命を追放する。

第2章 まいのぼり

須佐之男命は反省し高天原にいる天照大御神を訪ねることを父に提案する。父は天照大御神の元で

修行することに同意し立派な「まいのぼり」をするよう命ずる。須佐之男命は「みたましずめ」をして立派なまいのぼりについて覚り、現世のあらゆる穢れを背負って正々堂々と高天原にまいのぼっていく。

第3章 いつのをたけび

天照大御神は須佐之男命の反省を大いに喜び、ひかりの神としての威厳を示し弟の心を完全な状態に整えるために男神の姿（Ⅱいつのをたけびの準備）で迎える。須佐之男命はそれを受け止めてさらに反省する。天照大御神の光を受け須佐之男命に怪しき心が無くなり清明心になっていることがわかるが、天照大御神はその証をするよう命ずる。

第4章 うけひ

須佐之男命は天照大御神の「おひかり」に包まれ御魂鎮めを続け、無色透明になりただ「おひかり」だけになる（Ⅱうけひ）。天照大御神はさらに第二の証を立てるよう命じ、須佐之男命は御子を生むことを提案する。

「勝佐備」（かちさび…第五章～第十章）

第5章 あめのやすかは

須佐之男命は受け日の過程で見事なひかりの流れ（Ⅱあめのやすかは）を発見したことを天照大御神に伝え、天照大御神はそれが須佐之男命に見えたことを大いに喜びそこで一大事業（Ⅱみこうみ）をすることを提案する。※あめのやすのかは…課題を背負っているものの「いのち」本質

第6章 あめのまなゐ

須佐之男命は「受持ち」である現世の開拓を急ぎたいと考えるが、それに必要なものを天照大御神から問われ、「手」「太刀」（Ⅱ十拳剣）と答える。

「なきいさち」の頃は「殺太刀」となっていたがこれを「生太刀」とするため、天照大御神は「あめのやすのかは」の中に入る。その中の「あめのまなゐ」で禊をし殺太刀は生太刀となる。

第7章 いふき

天照大御神は「あめのまなゐ」において生太刀に息を吹きかけ（Ⅱいふき）三人の姫御子が生まれる（Ⅱみこうみ）。

第8章 やさかのまがたまのいほつのみすまるのたま

須佐之男命も「みこうみ」をするため、十拳剣に代わるものを天照大御神に求め、天照大御神は「八尺勾玉之五百津之美須麻流之珠」を差し出す。須佐之男命はそれを受取り、「あめのまなゐ」において「いふき」を行い五人の彦御子が生まれる（Ⅱみこうみ）。

第9章 みこのりわけ

三人の姫御子は、須佐之男命の生太刀を「ものだね」として生まれたので須佐之男命の受持ちの協力者であり、五人の彦御子は、天照大御神の珠を「ものだね」として生まれたので天照大御神の受持ちの協力者である。八柱の御子達はそれぞれ自分の名前の意味と受持ちとの関係を申し述べる。

第10章 かちさび

須佐之男命は自らの受持ちである現世の開拓に参考となる高天原の調査と勉強を始める。農業等の修行と研究に熱心に励むあまり自分の考えを試すようになり高天原の神々と衝突してしまう。

■次回予定…

2021年4月24日(土) 9:30～11:30

※次回も Zoom により「天岩屋戸」を味わう予定

■参加申込方法…

開催日前日正午までに、下記必要事項を記入の上、メールにてお申し込みください。

【必要事項】所属支部、氏名、緊急連絡先(携帯)

【申込先】

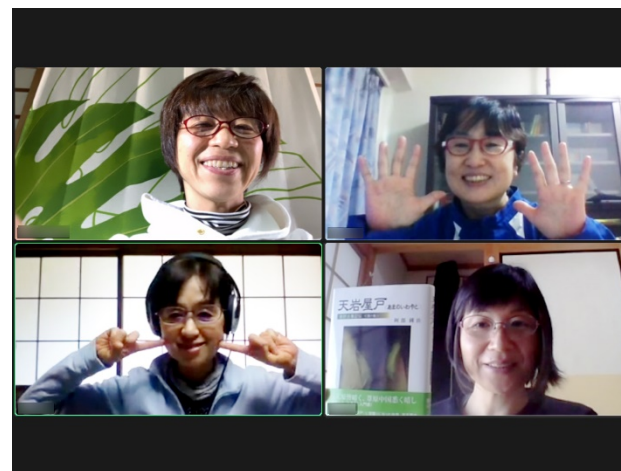
reading-circle@womencivilengineers.com

(担当…小林)

以上



Zoom 読書会の進め方



Zoom での開催の様子